

第6次中期計画・営農振興計画

平成28年度～30年度

平成29年度取組実践状況報告 (JA前橋市の自己改革の取り組み)



▲ 園児たちに苗の植え方を教える青年部員



▲ JA前橋市きゅうり・なす選果場



▲ JAバンクPRイベント



▲ 女性大学の陶芸教室



JA前橋市

群馬県前橋市富田町2400番地の1 TEL.027-261-3000

目 次

● 第6次中期計画の概要	1
● 農業者の所得増大に向けた取り組み	4
● 農業生産拡大に向けた取り組み	7
● 地域の活性化に向けた取り組み	8
● 営農・経済事業改革の実践	8
● 総合事業を活かした部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ	9
● 事業体制の見直しと確立による 事業収益基盤の拡大と深耕	10
● 地域貢献に関する取り組み	11

平成29年度に取り組んだ
様々な活動をご報告します！



JA前橋市イメージキャラクター
ジャジャゴン

第6次中期計画・営農振興計画について

中期計画・営農振興計画とは、めざすJA前橋市の姿（長期ビジョン）の実現に向け、経営課題に取り組むための3か年（第6次は平成28年度～30年度）の計画です。

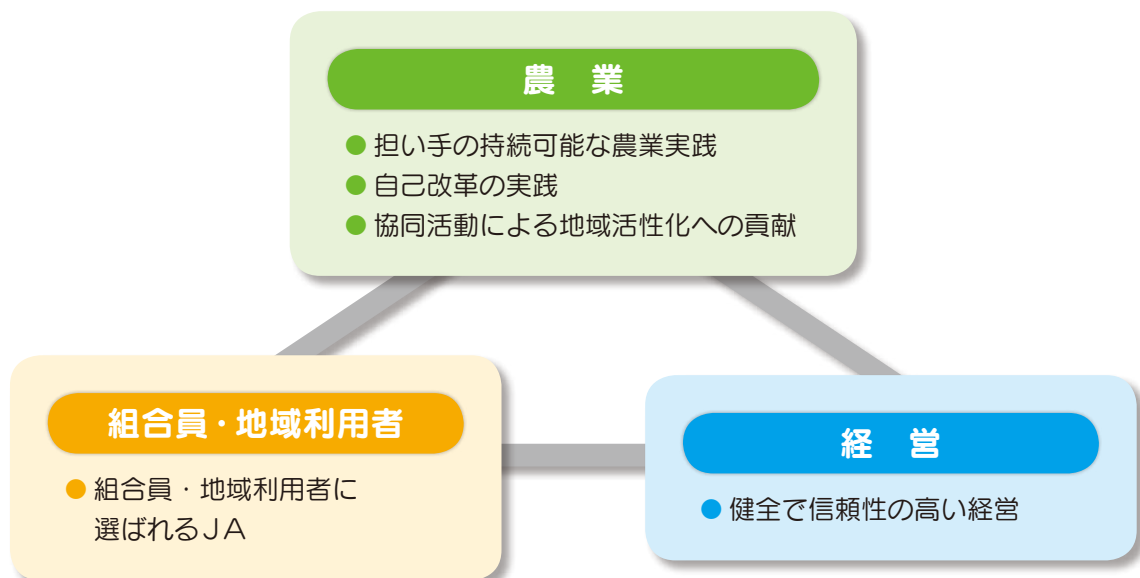
徹底した進捗管理により、掲げた3か年の数値目標の達成、さらにはめざすJA前橋市の姿の実現に向け、役職員一丸となって取り組んでいます。

自己改革としての取り組み

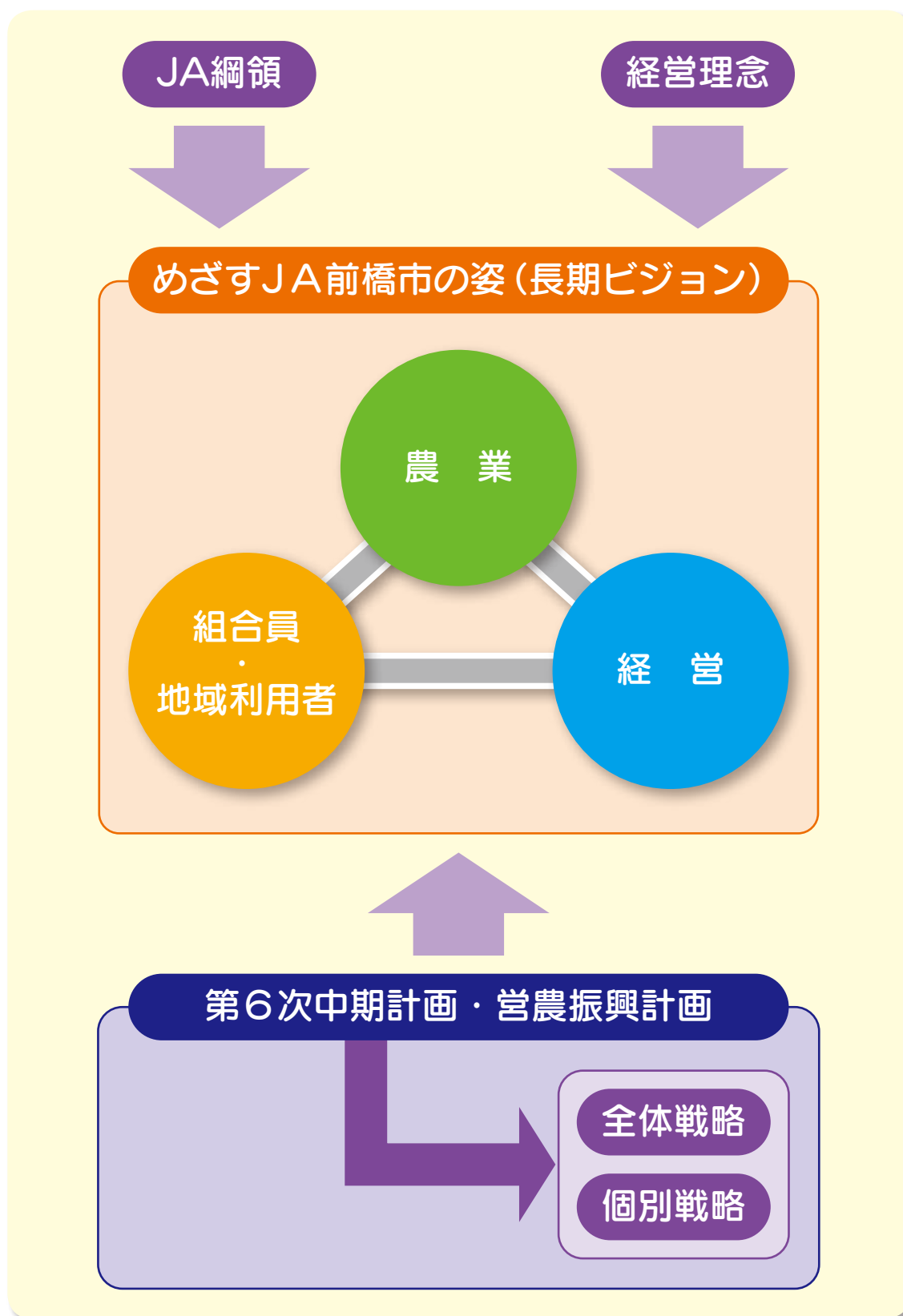
JAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、相互扶助の理念に基づき、消費者の皆さんへ安全・安心な国産農畜産物をお届けし、農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化を実現するため、様々な自己改革に挑戦しています。

JA前橋市では、中期計画・営農振興計画に基づき、自己改革に取り組んでおり、その実践が組合員へ浸透し、組合員より高い評価を得られるよう取り組みを加速してまいります。

めざすJA前橋市の姿（長期ビジョン）



第6次中期計画・営農振興計画の体系図



計画は、「農業」「組合員・地域利用者」「経営」の3つの柱で成り立っています。この柱の中にはそれぞれ戦略が掲げられており、この戦略をもとに様々な取り組みを実践しています。

第6次中期計画・営農振興計画の戦略構造

農 業

全 体 戦 略	個 別 戦 略
農業者の所得増大に向けた取り組み	① 農畜産物の生産振興 ② 販売機能の強化 ③ 地産地消の強化 ④ 農業経営管理の支援 ⑤ 経営コスト低減への取り組み
農業生産拡大に向けた取り組み	① 担い手経営体の育成支援 ② 農地の有効活用への取り組み ③ 担い手の労働力軽減への支援 ④ 営農支援体制の機能強化 ⑤ 農畜産物の生産拡大支援
地域の活性化に向けた取り組み	① 組合員組織の活性化 ② 食農教育の拡大
営農・経済事業改革の実践	① 営農エリア化構想 ② 共同乾燥調製施設の再編

組合員・地域利用者

全 体 戦 略	個 別 戦 略
総合事業を活かした 部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ	① 共済相談窓口併設のローンセンターの新設 ② 企業・取引業者・系統関連団体への推進体制の確立 ③ 重層訪問活動による顧客満足度（CS）の向上 ④ 相続相談対応部署の設置

経 営

全 体 戦 略	個 別 戦 略
事業体制の見直しと 確立による 事業収益基盤の拡大と深耕	① 支所機能等の見直しと営業力強化による収益拡大 ② 収益構造の抜本的な見直しによる収益基盤の拡充 ③ 長期ビジョンの実現に向けた司令塔機能の強化 ④ 職員資質を高める事による活力ある職場環境づくりと利用者満足度の向上

「匠の技」の伝承 「農家手取り最大化」プログラムの導入

「農家手取り最大化」プログラム導入による、出向く営農指導により担い手等への肥料・農薬の最適化の提案とＪＡ前橋市管内の作物別の「匠の技」の伝承を行っています。



▲生産者と職員によるグループワーク

プログラムについて

農家に対する提案活動や篤農家（匠）の技の伝承などを通じ、農家手取り最大化に向けた取り組みを加速させるプログラム。

- ①農家手取り最大化に向けて生産者に出向く営農渉外活動を促進するための『提案書』や『ツール』を用意。
- ②実践する過程で『研修会』や『ワイガヤ（職員同士学び合いの会）』『生産者への提案活動』を通じ、営農課長や営農渉外の人材育成を促進。

農家の技術支援 各エリアで栽培講習会等開催

ＪＡ前橋市各種支援事業等の有効活用推進の実践と、エリアごとの栽培講習会・現地講習会を開催しました。これら栽培技術支援の実施により、ＪＡ前橋市の重点作物を中心に生産拡大を図りました。

	キュウリ	1.1ha
	ナス	1.6ha
	ネギ	1.7ha
	ブロッコリー	3.8ha
	ニガウリ	0.4ha
	ズッキーニ	3.0ha
	加工キャベツ	1.9ha

合計13.5ha生産拡大!!

29年度に開催した主な講習会

中部エリア

- キャベツ講習会
- ほうれん草・ちぢみほうれん草栽培講習会
- 春菊栽培講習会

東部エリア

- ブロッコリー栽培講習会
- ちぢみほうれん草栽培講習会

南部エリア

- ズッキーニ現地栽培講習会
- 露地ナス現地栽培講習会
- キャベツ講習会

北部エリア

- ズッキーニ栽培講習会
- ほうれん草栽培講習会
- たまねぎ栽培講習会

経営コスト低減 生産資材価格の低減

経営コスト低減を図るため、量販店等の価格調査結果をもとに仕入れ業者と交渉を行い、種子を中心に5品目の価格低減及び仕入れの見直しによる肥料6品目の価格を3～5%低減できました。

また、肥料共同購入運動の実施による組合員への供給価格低減に努めました。

肥料共同購入運動における価格引き下げに向けた4つの取り組み

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ① 銘柄の絞り込み（銘柄集約） | ③ 購買数量の事前確定（組合員の事前予約制） |
| ② メーカーの絞り込み（価格の徹底比較） | ④ 運動参加者の拡大（JA利用率の向上） |

朝市、トラック市、料理実演会・・・ 産直ゆうあい館のイベント盛り沢山

JA前橋市の農産物直売所である産直ゆうあい館にて、朝市やトラック市、野菜ソムリエによる料理実演会等を開催し、集客率向上に努めて来ました。

また、集客率の向上による産直部会員の所得増大を図るため、平成30年7月の新装開店に向け、ゆうあい館の増改築を進めています。

▶ 朝市



▶ 野菜ソムリエによる料理実演会



▲ トラック市

ブランド力で上州牛をPR 「上州牛まえばし」ブランドの確立

上州牛をはじめとした前橋産農畜産物の消費拡大、地産地消を促進することを目的に、「上州牛まえばし」のブランド化に取り組みました。その結果、平成30年2月28日に前橋市の「赤城の恵ブランド」に認証されました。今後、ブランド化された「上州牛まえばし」のPRを積極的に行い、前橋産農畜産物の消費拡大、地産地消の促進に努めてまいります。



▲「赤城の恵」ブランド認証「上州牛まえばし」

上州牛まえばしの紹介

上州牛まえばしは、JA前橋市肉牛肥育部会員が丹精込めて育てた牛の脂肪（サシ）に多く含まれている「オレイン酸」に着目し、一頭ごとに含有量を測定して45%以上を認定としています。「オレイン酸」には血中の中性脂肪やコレステロールの量の調整をする働きがあり、脂肪の融点（口に入れた時に脂肪が溶ける温度）が低くなり、口どけが良く柔らかな食感を堪能できます。

各地で前橋産農畜産物フェアを開催

前橋産農畜産物フェアを市内外の市場や量販店で積極的に開催し、消費者へ「安全・安心」な前橋産農畜産物のPR活動を展開してきました。

また、JA常勤役員によるトップセールスや市場関係者及び実需者との意見交換会を開催し、前橋産農畜産物の優先的取扱いや新規取引拡大のためのプレゼンを実施しました。



▲みのりみのるマルシェ



▲ 淀橋市場でのトップセールス

29年度に開催した 主なフェア等

- 国産農畜産物商談会
- アグリフード2017
- みのりみのるマルシェ
- 淀橋市場の
トップセールス

組合員ニーズに沿った職員による素畜購買

畜産では、専門職員立会いによる素畜購買により、農家の希望に沿った供給に取り組んでいます。この取り組みにより、畜産農家の生産基盤の確保が図れました。

担い手の労働力軽減と生産拡大へ きゅうり・なす選果場新設・イオンメーターの導入

J A前橋市管内のきゅうり・なす販売高15%増加及び担い手等の労働力軽減による生産拡大を図るため、①きゅうり・なす選果場を新設しました。②汁液診断機（イオンメーター）を導入し、栽培技術支援を実施しました。

育苗関連では、水稻育苗センター・野菜育苗センターの利用推進の実施や良質苗の供給による担い手労働力軽減に努めました。

選果場外観



開所式の施設見学



選果作業の様子1



選果作業の様子2



集約による合理化の推進

集落営農組織の複合型経営を推進し、新たに5組織が野菜生産に取り組み、栽培講習会の開催や圃場巡回指導を実施しました。

農地利用集積の促進では、農地中間管理機構を活用した農地利用集積を実施し、601haの集積を図りました。

畜産専任 営農指導員の育成

畜産では、専任営農指導員の育成を図っています。畜産部内でスキルアップの研修を行い、研鑽を積んでおり、29年度は、「J A全国専門畜産経営診断士」の資格を2名取得、「全国お肉検定（お肉博士）」に1名の合格者を出すことができました。

「食」と「農」の大切さを子どもたちへ 食農教育に関する取り組み

田植えや稲刈りなどの農業体験や餅つき大会等を通じて、「食」と「農」の大切さを、次代を担う子どもたちに伝えました。いも掘りでは、青年部の指導のもと、園児たちが収穫を行い、女性部が調理をして子どもたちと一緒においしく食べました。



田植え教室



▲ 青年部と園児のじゃがいも掘り



▲ 餅つき体験する園児たち

支所の垣根を越える 営農エリア化構想

営農エリア化では、重点8品目を中心とした推進品目の選定と栽培推進及びエリアごとの栽培講習会を延べ18回開催し、栽培技術支援の実施及び支所の垣根を越えた生産者交流会等による情報の共有を図りました。

総合事業を活かした部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ

部門連携による 農業金融施策のPRで地域農業の活性化

部門間情報共有の戦略に基づき、営農・畜産担当者と連携を行い、農業法人等への金融サービスのアプローチ強化（農林中央金庫職員同行含む）により、「各種農業資金」等のご案内、併せて、JAグループとして地域農業振興に資する支援として、「JAバンク利子助成」・「ぐんま農業担い手サポート融資事業（保証料助成）」等のご案内を行い、農業者のニーズに応えました。

また、農業法人・各種部会等の会議に出向き、JAバンクの農業資金・農業金融施策等について積極的にPRを行い、適切な資金対応を通じた地域農業の活性化に取り組みました。



▲ 農業法人の会議にて農業資金を説明

平成29年度 農業関連資金新規実行

金額：774百万円

件数：109件

「JA前橋市共済契約者の集い」 天童よしみコンサート開催

JA前橋市管内の共済契約者を対象に、群馬音楽センターにおいて「JA前橋市共済契約者の集い」天童よしみコンサートを開催し、約2,300名が参加しました。これにより、新規契約者と大口保有契約世帯を対象に、顧客満足度（CS）の向上を図りました。



◀ 共済契約者の集い

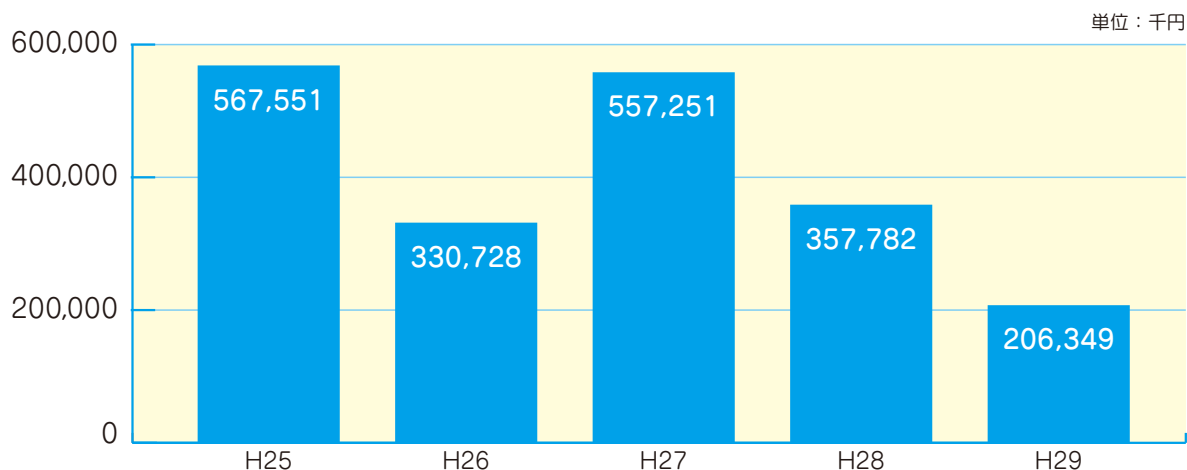
事業体制の見直しと確立による 事業収益基盤の拡大と深耕

支所・営農施設再編計画 地域組合員・地域利用者に貢献するために

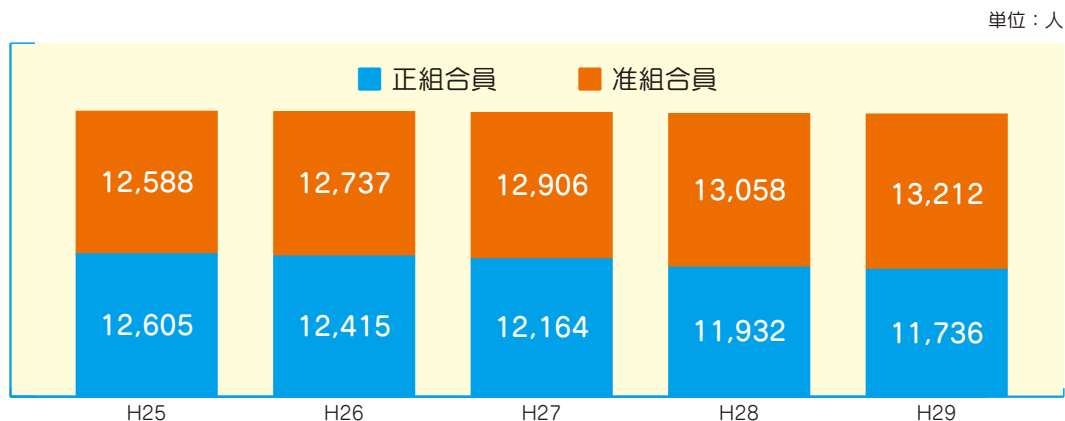
経営基盤の安定化、さらにはその先にある地域農業・地域利用者に貢献することを目的として、支所・営農施設再編計画の策定を進めています。

着実に計画を実践することにより、当面の課題である経営基盤の安定化に努めてまいります。

当期剰余金の推移



組合員数の推移



地域貢献に関する取り組み

野球大会で 前橋産農畜産物を寄贈

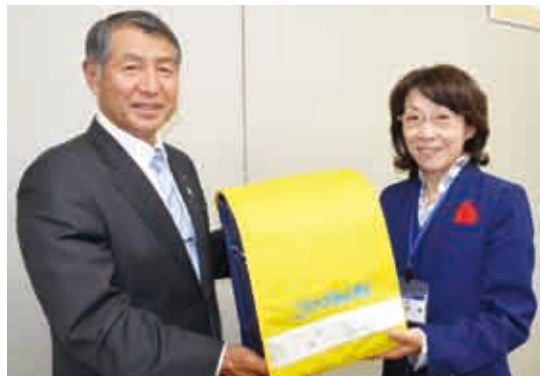
J A群馬杯第48回群馬県少年学童軟式野球大会において、優勝・準優勝・3位チームに前橋産農畜産物、参加者全員に前橋産のお米を寄贈しました。

▶ 野球チームにお米を寄贈



教育委員会へランドセルカバー、 食農教育資材を贈呈

地域貢献活動の一環として、前橋市教育委員会へランドセルカバー、食農教育資材を贈呈しました。



▶ 教育委員会にランドセルカバー・食農教育資材を贈呈

1 支所 1 地域協同活動

J A前橋市では、組合員や地域住民との共生を図るために、「1 支所 1 地域協同活動」に取り組んでいます。この活動を通して、明るい地域づくりに貢献しています。

木瀬支所 ▼ お客様感謝デー（地元いちごプレゼント）



南橘支所 ▼ 地元野菜の産直まつり



桂萱支所 ▼ 桃の木川サイクリングロードの清掃



粕川支所 ▼ 粕川まつり参加



〔JA前橋市キャッチコピー〕

笑顔と信頼 広げよう「ありがとう」の気持ち



JAグループは今、「みんなのよい食プロジェクト」を推進中。

「みんなのよい食プロジェクト」とは、安全で品質の高い農畜産物の生産や地産地消、食農教育など、いろいろな事業を通して生産者と消費者の絆を深める取り組みです。



耕そう、大地と地域の未来。